

1

オーテピア高知図書館の基礎的サービス
(横断的な取組)

(1) 資料・情報の提供
(貸出し・閲覧・予約・レファレンス)

取組と成果 (R4～R6年度)

- 国内年間出版点数の4割以上の一般図書を収集・提供した。
- 2,000タイトル以上の雑誌・新聞を収集・提供した。
- 学術電子図書館KinoDenの提供を開始した(R5.7月～)。
- セルフ貸出機、セルフ予約受取コーナー、図書検索機の利用を推進した。
- 活用事例まんがVol.4～6を作成するなど、分かりやすい手段でレファレンス・サービス等の広報を強化した。

評価

データベース、電子書籍サービスの提供、資料のデジタル化など、ハイブリッド型図書館を目指した取組を推進。

今後の取組 (R7・R8年度)

- 電子書籍サービスの使い方講座の開催やイベント等での電子書籍紹介ブースの出展など、利用拡大を図る。
- ブックリスト、パスファインダー、活用事例まんが等の作成、館内ツアーの実施、図書館のサービス紹介動画の提供など、多様な媒体により、図書館サービスの一層のPRを実施。

(2) 情報リテラシー
の向上支援

取組と成果 (R4～R6年度)

- レベル別の情報リテラシー講座を開催するなど、丁寧な支援を行った。
- 図書館活用講座の実施等により、一部のデータベースの利用件数が増加傾向にある。
- 蔵書検索方法を説明した動画等を作成し、YouTubeで公開。一般利用者だけでなく、市町村図書館等の職員のスキル向上にも寄与した。

評価

情報の探索・検索及び評価能力の向上を中心に、情報リテラシーの向上支援のための取組を実施。

今後の取組 (R7・R8年度)

- 様々な分野の学校向け図書館活用講座を実施し、データベースの利用を促進する。
- 情報リテラシー向上支援担当が各サービス担当をサポートし、パスファインダーの作成を促進する。

2

地域を支える情報拠点機能・
課題解決支援機能の充実

(1) ビジネス支援
サービス

取組と成果 (R4～R6年度)

- 関係機関と連携した展示により、専門的な視点を生かした資料の提供を行った。
- 活用講座の実施により、レファレンス・サービスやデータベースの利用が増えた。
- 関係機関と協力して相談会や出前図書館等を実施したことで、関係機関との連携の強化と、図書館の活用の促進につながった。
- 分館・分室にビジネス分野の図書を提供し、地域の利用者がビジネス分野の資料を手に入る機会を増やした。

今後の取組 (R7・R8年度)

- 連携機関にビジネス支援サービスの説明を行い、さらなる利用を促す。
- 商業系の高校等でビジネス情報検索のための図書館活用講座を実施し、利用拡大に取り組む。
- 関係機関が実施する研修やイベントに参加し、利用者及び団体のニーズを把握する。

(2) 健康・安心・
防災情報
サービス

取組と成果 (R4～R6年度)

- 誰もが訪れやすい図書館において相談会やイベントを開催することで、支援を必要とする利用者と相談窓口をつないだ。
- 連携機関との協働により、専門的な視点から情報を届けた。
- 連携機関の広報を支援した。
- 積極的なPRの結果、関係機関等との連携事業が増加した。

今後の取組 (R7・R8年度)

- 利用者の情報ニーズに応えたアプローチができるように、専門機関との連携を継続する。
- 課題解決支援のうえでニーズが高い防災をテーマにした図書館活用事例まんがを作成する。

評価

関係機関との連携の強化により、各機関の専門的視点や強みを生かした課題解決支援サービスを実施。

(3)

行政支援サービス

取組と成果（R4～R6年度）

- 行政機関の研修でのサービス説明や庁舎内での出前図書館の実施により、行政職員の業務での利用が増加した。
- 各組織・機関と連携した取組の実施により、県市の施策の推進を支援した。
- 学校教職員向けカードの運用開始など、登録や貸出し等の運用を整理したことにより、業務や授業の研究に役立つ資料の利用と登録が増加した。



積極的なPRにより、行政職員・行政機関の利用登録と貸出、レファレンス等の利用が増加。

今後の取組（R7・R8年度）

- 行政機関の研修で図書館活用講座が実施できるよう、引き続き働きかける。
- 高知市役所で実施した出前図書館を県庁等でも実施する。
- 行政機関との連携で深まった職員同士のつながりを生かし、役立つサービスをより多くの行政機関にPRする。

(4)

高知県関係資料の収集・保存・提供

取組と成果（R4～R6年度）

- 高知県関係資料を積極的に収集し、行政資料など市販の図書・雑誌以外の資料が幅広く得られるようになった。
- 貴重資料のデジタル化とウェブ公開により、貴重資料の利用件数が伸びるとともに、新聞・雑誌・テレビ等への画像データの提供が増加した。
- 展示室で貴重資料をパネル展示することにより、貴重資料に対する理解を深めることができた。



資料のデジタル化及びウェブ・サイトでの目録や画像データの提供、貴重資料のパネル展示等により、郷土資料の活用を促進。

今後の取組（R7・R8年度）

- 多様なレファレンスに対応するため、職員のレファレンス業務にも役立つブックリスト、パスファインダーを作成・提供する。
- 【市】貴重資料のデジタル化に従事する人材を育成する。

(1)

児童サービス

取組と成果（R4～R6年度）

- 小学校の図書館見学の機会を生かし、図書館の分類の仕組みやサービスについて伝えることができた。図書館見学をきっかけとした親子連れの来館も見られる。（児童のR6年度図書館見学受入実績：80団体／2,965人）
- 子育て関連の資料を集めた子育て応援コーナーを拡充し、保護者の利用を増やした。
- 外国語資料のうち児童書をこどもコーナーに移動するなど、ニーズに応じて排架を見直し、必要な資料を探しやすいコーナーづくりを進めた。



子どもの頃から図書館に親しみを持ち必要な情報が得られるよう、子どもや子育て世代への積極的な働きかけを実施。

今後の取組（R7・R8年度）

- 図書館見学で、司書への尋ね方（レファレンス）等を説明するなど、レファレンス受付件数の増加のための働きかけを行う。
- 情報リテラシー向上支援に資するパスファインダーや動画などをウェブ・サイトで提供する。
- 児童図書選定支援コーナーについては、高知市図書館支援員へのアンケート調査の実施などによりニーズを把握・分析し、運用の工夫と一層のPRを行う。

(2)

ティーンズ・サービス

取組と成果（R4～R6年度）

- 高校向けの図書館活用講座を実施し、情報リテラシーに関する学習機会を提供。教員から毎年度の実施を望む声があるなど、実施件数が増加した。
- 県内の不登校支援機関を訪問し、図書館との連携を推進。高知市教育支援センターとの連携事業の継続的な実施などにより、協力関係が強化できた。
- ティーンズ通信の配信、ティーンズ部の運営、全国高等学校ビブリオバトル高知県大会の開催などを通じ、ティーンズ間の交流を促す読書普及活動を行った。



多様な課題やニーズを持つティーンズ世代の事情に応じて、多角的なサービスを提供。

今後の取組（R7・R8年度）

- 高校向けの図書館活用講座の実施件数を増やし、利用促進を図る。
- ティーンズの図書館利用の促進につながる新たな企画を実施する。
- オーテピア高知図書館で不登校相談会を実施する。

(3)

多文化サービス

取組と成果 (R4~R6年度)

- 外国人や支援者向けの本を集約した常設展示の設置により、利便性が向上した。
- 外国人向けの図書館ツアーや図書館活用講座を実施し、外国人の利用を促進した。
- 外国語のおはなし会などを多数開催し、多文化理解を深める機会を提供した。
- 「高知県外国人材受入・活躍推進プラン」に参画し、図書館として日本語学習資料や母国語資料などの必要な情報を提供することにより、外国人労働者が暮らしやすい環境づくりに寄与した。



多様化する県内在留外国人やその支援者、雇用主、地域住民にとって有益な情報を提供。

今後の取組 (R7・R8年度)

- おすすめ本アンケートBOXの関係機関への設置や、日本語学習資料・母国語資料の積極的な収集・提供を行う。
- 高知市教育研究所と連携し、帰国・外国人児童生徒や保護者を対象とした交流会の場等で、サービスの周知を図る。
- 在留外国人を対象にしたアンケート調査の実施により、ニーズを把握・分析し、サービスの向上と利用促進を図る。

(4)

図書館利用に障害がある人へのサービス

取組と成果 (R4~R6年度)

- オーテピア高知声と点字の図書館と連携して、リモートによる音訳サービスを開始するとともに、宅配サービス、手話の読み聞かせ動画の配信により、非来館サービスの充実を図った。
- 手話を使った利用案内の動画を配信するなど、多様な媒体を活用した広報を行い、図書館サービスの普及・啓発を図った。
- 手話によるおはなし会や音声解説付きの上映会を開催するなど、障害の有無にかかわらず、誰もが図書館資料を楽しむことができる機会を提供した。



来館が困難な方でも利用可能なサービス提供を強化するなど、だれもがやさしく使える図書館となるための取組を実施。

今後の取組 (R7・R8年度)

- 多様なバリアフリー資料を収集するとともに、展示やブックリストの提供等により、資料の周知・普及を図る。
- 図書館利用に障害のある人を対象に、図書館利用に関するアンケート調査等を実施し、バリアフリー環境の整備に生かす。
- SNSでの情報発信や関係機関・団体への訪問、市町村図書館向けの研修の実施など、地道なPRを継続する。

(1)

市町村立図書館等への支援

取組と成果 (R4~R6年度)

- 多様な主体との連携を促すことで、市町村における図書館活動の幅が広がった。
- 県生涯学習課との定期的な情報共有や同行訪問により、新図書館整備中の自治体等に対し、踏み込んだ働きかけができた。
- 市町村図書館等向けの研修の内容や方法を改善し、より幅広い研修機会が提供できた。



市町村の実態に応じて、地域課題に対応したサービスの創出・充実等、図書館活動の活性化を支援。

今後の取組 (R7・R8年度)

- 業務分担を見直すとともに、市町村支援に求められる幅広い知識・スキルを習得し、支援業務の質的向上を図る。
- 図書館振興の方向性と第3期サービス計画のビジョンや取組について、県生涯学習課と協議を行う。
- 市町村立図書館等の現状を踏まえたうえで、特に基礎研修の内容と方法の見直しを図る。

(2)

高知市全域サービスの拠点

取組と成果 (R4~R6年度)

- ニーズに応じた本を月300冊程度、本館から分館・分室に提供して展示することで、分館・分室の利用促進と活性化につながった(コテピア)。
- 業務の基礎研修を毎月実施することで、分館・分室も含めた接遇力が向上した。
- 小・中学校への団体貸出に加え、学校図書館支援員研修の実施や高知県電子図書館への児童・生徒の一括登録により、学校の読書環境の改善を図った。



オーテピアの資料やノウハウを全館室で共有するとともに、分館・分室や学校の事情に合わせたサービスを提供。

今後の取組 (R7・R8年度)

- 分館・分室のカルテ作成を進め、各地域の利用者に合わせた図書館サービスの提供を行う。
- 研修会を継続して実施するほか、分館・分室を訪問してサポートを行うなど、接遇力のさらなる向上を図る。
- GIGA端末の普及により変化するニーズを把握・分析し、学校現場への協力の在り方を再検討する。

(3)

県立学校図書館等
との連携・協力

取組と成果 (R4～R6年度)

- 教科教育や学校の課題解決に役立つ資料を収集。特に、情報教育、国際理解教育、環境教育に対応した資料を集中的に提供できるようになった。
- 各学校や団体、地域で連携の核となる実習助手(学校司書)や教員とのつながりができ、連携・協力の関係が深まった。
- 学校のカリキュラムに対応したデータベース活用講座や情報リテラシー向上に役立つ学習機会の提供などにより、図書館の物的・人的資源を生かした連携・協力の取組が広がった。

評価

各校の求めに応じた資料提供に加えて、学習活動と図書館活用を結びつけるため、訪問や活用講座等を実施。

今後の取組 (R7・R8年度)

- テーマ別の図書セットに加え、各学校のカリキュラムの展開に役立つ図書セットを提供する。
- モデルとなる学校に対して、年間を通じて集中的に訪問し、図書館資料や情報資源の活用をより具体的に提案する。
- より具体的な取組事例などの情報発信によって、図書館活用の機運を高める。

(4)

大学等への教育・
研究機関等との
連携・協力

取組と成果 (R4～R6年度)

- 高知県立図書館と大学図書館等との相互協力協定を、高知市立市民図書館を含めた三者協定として締結(または再締結)することで、大学図書館等との連携・協力による取組を進める基盤が整った。
- 当館の課題(調査・研究活動やBCPに係る研修等)について、大学の専門性を生かして解決につなげることができた。
- 学生のキャリアにもつながる形で、ボランティア活動の受入れができた。

評価

大学等との協力の枠組みを整備し、双方の強みを生かした連携による相乗的な効果を発揮。

今後の取組 (R7・R8年度)

- 県内大学の組織等を分析し、当館との連携が期待できる部署に対して、アウトリーチの働きかけを行う。
- 教員の研究活動や学内の各部署が行うイベント等において、まとまった資料を貸し出す際のルールを検討する。
- 学生の専門領域や強みを生かしたボランティア活動を受け入れる。

(5)

中心市街地活性
化への寄与・周
辺施設との連携

取組と成果 (R4～R6年度)

- 商店街向けブックリストの作成・提供により、図書館資料の利用の促進につながった。
- よさこい祭り関連展示や土曜夜市、龍馬生誕祭で集客を行い、賑わいに貢献した。
- NHK連続テレビ小説「らんまん」・「あんぱん」の関連展示と合わせて、観光情報も提供するなど、観光振興に寄与した。
- 「まちゼミ」では、展示やブックリストの提供を行うなど、商店街と一体的に取り組んだ。

評価

地元商店街や周辺施設と連携・協力した取組を行い、中心市街地の活性化に寄与。

今後の取組 (R7・R8年度)

- イベント等の機会に、中心商店街関係者のニーズの聞き取りや図書館サービスのPRを行う。
- 商店街のイベントに継続して参加する。
- 県立文学館の展示コーナーと当館の書架に、互いの館の情報が表示できるQRコードを設置するなど、中心市街地の回遊を促す。

サービス提供体制の
強化・充実

○資料・情報の充実と司書の専門性の向上

- ・紙媒体、電子媒体(電子書籍サービス、データベース等)ともに資料の充実を図った。
- ・職員全体研修の実施、国立国会図書館等の研修への参加のほか、専門機関のセミナーや講座に積極的に参加した。

○サービスの普及・啓発(連携・広報)

- ・対象に合わせて多様な広報媒体(SNS、新聞、行政掲示板、まんが等)を使い分け、積極的に情報発信を行った。

○ボランティア等との連携・協働

- ・各団体の専門性を生かし、おはなし会をはじめ、双方にメリットのある活動を行った。

○業務継続計画(BCP)の策定

- ・BCPを策定するとともに、BCPに基づく机上訓練を実施するなど、災害発生後のサービスの提供体制等について具体的な検討を行った。